

Mémoire 2024

第169回 天皇賞(春) (GI)



共に掴んだ待望のGI初制覇 テオーロイヤル

遅咲きのステイヤーか。瞬く間に菊花賞馬に上り詰めた新鋭か。長距離王者決定戦は、そんな二強対決の構図となった。

単勝オッズは同じ2.8倍、わずかな票数の差で1番人気となったのは6歳のテオーロイヤルだった。2024年は初戦のダイヤモンドSを制し、阪神大賞典も5馬身差の圧勝。堂々の長距離重賞2連勝でここへ臨んでいた。一方の2番人気はドゥレツァ。前年は未勝利から破竹の5連勝を飾り、最後は重賞初出走で菊花賞制覇の離れ業。こちらは金鯱賞2着からの参戦となっていた。

レースはマテンロウレオが1000㍴59秒7というハイペースで後続を離して逃げる展開となった。2、3番手には天皇賞(春)で3年連続2着中の古豪ディープボンドとドゥレツァが並び、それをマークする形でテオーロイヤル。勝負どころの2周目3コーナー過ぎからディープボンドがスパートすると、テオーロイヤルも外から追従。対照的にドゥレツァは失速して下がっていく。

直線、早々とテオーロイヤルがディープボンドに並びかけて交わすと、あとは独壇場だった。粘るディープボンドに後方から迫ったプロ

ーザホーン、スマートファントムを加えた2着争いを2馬身後方に見ながら独走のゴール。骨折で4歳秋から1年近くの休養を余儀なくされたが、そんな苦勞を乗り越え、ついに頂点を掴んだ。

菱田裕二騎手は31歳、デビュー13年目で待望のGI初制覇となった。20年前の天皇賞(春)を観戦したことがきっかけで騎手を目指したという菱田騎手は「今まで生きてきた中で一番嬉しいです。4コーナーを回ってくる時は、20年前の自分に『見ておいてくれ』という気持ちでした」と満面の笑みで喜びを語った。

また管理する岡田稲男調教師もこれが開業22年目で初のJRA・GI勝ち。馬も人もGI初制覇の歡喜に包まれた一戦となった。

第169回天皇賞(春) (GI)

4/28 京都競馬場 3200㍴(芝・右・外) 晴・良 17頭									
着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	テオーロイヤル	牡	6	58	菱田 裕二	岡田 稲男	3:14.2	①	④④⑤②
2	フローザホーン	牡	5	58	菅原 明良	吉岡 辰弥	2	⑤	⑫⑬⑫⑫
3	ディープボンド	牡	7	58	幸 英明	大久保龍志	1/2	⑥	②②②①
4	スマートファントム	牡	4	58	岩田 望来	石橋 守	1/2	⑭	⑭⑭⑭⑭
5	ワープスピード	牡	5	58	三浦 皇成	高木 登	1 1/4	⑧	⑫⑪⑫⑩

テオーロイヤル
栄光の蹄跡

14

リオンディーズ 115 E
テオーロイヤル
メイショウオウヒ(マンハッタンカフェ)
2018.3.6 生 浦河・三嶋牧場



牡6
鹿
58
菱田 裕二
1992.9.26生 B型
小笹 公也氏
岡田 稲男(栗東)

2024.3.17 阪神
阪神大賞典GⅡ
15ト2人 1(115)
57*。菱田 裕二
芝3000稍 3:06.8

2024.2.17 東京
ダイヤモンドSGⅢ
10ト2人 1(114)
58.5*。菱田 裕二
芝3400良 3:30.2

2023.12.2 中山
スズナギサステイアーズSGⅡ
16ト2人 2(109)
57*。浜中 俊
芝3600良 3:45.8